

記憶の戦士

第3回

青木 健

◆「記憶の戦士」が日本チャンピオンに

前回の連載第2回目は、私の幼少期から大学でメモリスポーツに出会うまでについて書きました。前回読んでいただいた方は、私が幼少期も大学受験までも特別に頭が良かった訳ではなく、普通の大学生であったことがわかったかと思えます。今回は、私がメモリスポーツと出会った後から日本チャンピオンになるまでについて書いていきたいと思います。

◆決意と練習と出会い

世界記憶力選手権の放送後、何の情報もない私はとりあえず、「世界記憶力選手権」というキーワードを手掛かりにインターネットで検索していました。様々な世界記憶力選手権の記事の中に、記憶力日本選手権という大会が毎年2月に奈良県で開催されているということが書かれていました。そこで私は、世界を目指す第一歩として、記憶力日本選手権に出ることを決意しました。

早速私は、テレビの中でベン選手がやっているようにトランプを覚えるため、大人になってからまったくやっていなかったトランプを押入れの奥から何年かぶりにひっぱり出しました。早速練習として、トランプをめくってみました。ただただ無意味なマークと数字が並ぶだけで、開始して5分で「俺は何をやっているんだろう?」と思ってしまい、記憶できた枚数も5分でたった5枚程度と全く覚えられないことがわかりました。テレビの中でベン選手は、トランプ52枚をたった30秒程度で覚えていたのに、私は5分で5枚しか覚えられないことに大きな差を感じました。前日の放送でベン選手が、「トランプを覚える時は

ただマークと数字を覚えているのではなく、小説を読んでいるような感覚」だと言っていたことを思い出しました。本やインターネットで調べると、いろいろな本やサイトで、52枚のカードそれぞれを何か物に置き換えて記憶するという方法が掲載されていました。それも事前にイメージを決めておいて、それを記憶するとより早く記憶できるということが書かれていました。(「ハート1:床、ハート2:はにわ、ハート3:はさみ」等)

その方法を取り入れてから、すぐに結果が出るようになりました。初めて練習した時は、5分かかってようやく5枚程度のトランプしか覚えられなかった私が、約2ヶ月後には、20分くらいかければ、52枚全てのトランプを覚えることができるようになっていました。今思うと、約2ヶ月間一人で黙々と練習するのは非常に根気がいることで非常に辛かったことを覚えています。今となっては笑い話ですが、数十分間も毎日トランプとにらめっこしている私の様子を見て、両親や兄弟そして友人は、頭がおかしくなったのかと心配をされていました。

メモリスポーツの練習は大変ですが、メモリスポーツの訓練を始めて素晴らしい出会いもありました。練習を始めて約1年間一人で練習をしていましたが、インターネット上で当時日本チャンピオンであった中田智之選手が、ご自身の戦歴や記憶方法や選手としての苦悩などを公開されていて、そこで私はインターネットでメッセージを送り、様々なアドバイスをもらい練習をしていました。中田選手にインターネットでアドバイスをもらってからは、実力はそれまで以上に伸び、当時の自分はまだ気づいていなかったのですが、記憶力

日本選手権の直前には大会優勝を狙える実力まで成長していました。

◆普通の大学生が記憶力チャンピオンに!?

そして2011年2月6日、いよいよ「記憶の戦士」としてのデビュー戦の日がやってきました。大会会場は奈良県大和郡山市なので、大会の前日のお昼に現地入りし、久々に奈良公園や東大寺を観光し十分にリフレッシュをし、大会の準備をしました。そして当日、全国から記憶力自慢たちが集まりました。記憶力日本選手権は、国際標準の大会を模した「顔と名前」、「数字記憶」、「無作為の単語」、「短文記憶」、「トランプ記憶」の5種目で競います。最初の種目は「顔と名前」の競技です。63人分の顔と名前(フルネーム)が用意されており、15分でできるだけ多くの名前を記憶します。この種目は練習でかなりの高得点をとれていたため、かなり自信がありました。大会当日も、1種目で54人分の名前を記憶し、2位という好調な滑りだしをしました。



青木選手のトランプ記憶の様子(左)と、ブログ上でアドバイス求めた書き込み(下)

初めて書き込んでいただきました。僕は3ヶ月ほど前だと思えますが、フンダー・フンダーの世界記憶力選手権を見て、「俺も記憶力選手権に出たい」と思い、まだ始めて3ヶ月ほどですが日々の練習をしています。

そのころから、日本記憶力選手権の事やご自身のブログを知り、僕やご自身のブログを拝見させていただいておりました。

今回の「俺の戦歴」というテーマは、僕がどうやって練習しているのか、そして練習でできなかったり、練習してても進歩していないのかどうかは分からない状況が続いて、「いつになったらできるようになるんがよ!」と毎日練習を頑張ってほしいがらで書いているし、同時に記憶力トレーニングを受けている人は、自分の力でどうやればかかぬんです。記憶力選手権で優勝したご自身の心でも同じような経験をされていると思うことを知り、感動をうけました。ありがとうございます。

ご自身のブログはかなりの勉強になるので、これからも拝見させていただきますがよろしくお願ひします。

選手はお断りして大会出場はできませんが僕は毎日スピードカードとスピードナンバーのタイム計測してトレーニングしています。現地にこのトレーニングはやった方がいいというものがあたらアドバイスした方がいいと思います。

投稿:2011年4月、2010年7月17日(土)18時17分

その後も反とがりに調子を上げ、関係のない単語の羅列を記憶する「無作為の単語」でも15分で80個、5分でできるだけ数字を多く記憶する「スピードナンバー」では80個、50行の架空の文章を記憶する「短文記憶」では33行記憶しました。ここまでの4種目で総合2位の成績でした。1位を走る日本チャンピオンの中田選手に勝利するには、ジョーカーを抜いてシャッフルした52枚のトランプをできるだけ早く記憶する「スピードカード」で52枚全て完璧に記憶するしかありません。52枚完璧に記憶できれば優勝、できれば準優勝というとてもわかりやすい状況でした。かなりプレッシャーのかかる状況でしたが、落ちついて52枚を制限時間5分間で記憶できパーフェクトを確信しました。しかし回答時間の時に、47枚目と48枚目の順番を間違えてしまい、どちらがどちらかわからなくなってしまいました。ここで当てれば優勝、外せば準優勝という状況で1/2の賭けにでることになりました。

その結果、間違えてしまい、52枚中47枚記憶し、総合準優勝という非常に悔しい結果に終わりました。私にアドバイスをくださっていた中田選手が2連覇を達成し、お互い喜び合いました。

その後、中田選手から継続してアドバイスをもらい、さらにトレーニングを積み、海外の記憶力選手権で経験を積み、翌年の2012年の記憶力日本選手権では、ほとんど全ての種目で満点を出し、ようやく日本チャンピオンになることができました。

その後、世界記憶力選手権や各地の国際大会で、テレビで見たヨーロッパの強豪選手と、イギリスの国際大会ではベン選手と、同じ舞台で戦うことができました。ベン選手を見てメモリスポーツを始めたことを伝えると、大会後には他の選手達と一緒に家にまで招いていただきました。競技としてだけでなく、いろいろな友人が世界中にできるのもメモリスポーツの魅力だと感じました。



大会後、ベン選手達と